

# 働かずに報酬を得るのは脳破壊



岡崎国立共同研究機構

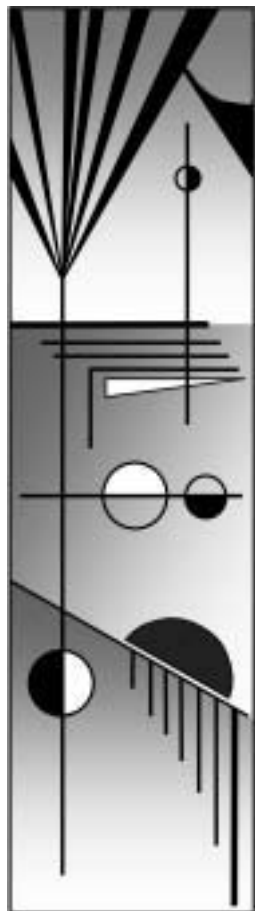
生理学研究所長 佐々木 和夫 氏

## 教育随想

私が子供の頃、親、先生たちは「日働かざれば一日食せず」と、無為徒食を戒めたものでした。当時、多くの子供は食料不足で栄養失調でした。最近では飽食と偏食、痩せ志向などで、栄養障害や体力低下をしばしば見聞きます。

脳の最高中枢と言われる大脳前頭前野（額から顳かみ辺りの脳）の研究中に、驚くべき事実を観察しました。人間の脳で実験はできないので、申し訳ないのですが、おサルさんに代行してもらいました。詳細は省略して、結論だけ記します。

二色の光刺激を弁別して報酬（ジュース）を得る課題で、一方の色、例えば緑を見て運動課題を行った時だけ報酬を与え、赤では与えない場合（非対称課題、A）と、緑で運動



を行う場合および赤で運動を行わない場合をいずれも正解として共に報酬を与える場合（対称課題、B）を試みますと、A課題では報酬を得るため懸命に学習し、緑の刺激の時だけ選んで運動課題を実行します。その学習完了後、B課題に切り替えますと、最初、赤で運動しないのが正解の時にも報酬が出るので、恐縮しか慌てて運動したりします。そのうち、何もしなくても二回に一回の確率で報酬が得られることを悟り、何もせずに、二回に一回のチャンス

でジュースを飲むことを覚えます。一旦そうなると元のA課題に戻しても、もう一切課題運動を行おうとせず、その結果報酬なしで飢餓状態でも、何もしようとしません。頭（脳）の中は真っ白なのでしよう。

努力し働く事なしに報酬を得る恐ろしさを教えられます。賄賂、汚職は論外ですが、物質的に恵まれ過ぎた社会の子供の養育、教育に心すべきことではないでしょうか。

(かみつき かずお)



平成14年9月1日

# 9月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想 ..... 1  
岡崎国立共同研究機構  
生理学研究所長 佐々木和夫氏
- この人に聞く ..... 2  
三河系養曳鶏を語る会  
事務局長 山田 等氏
- 羅針盤 ..... 2  
道徳指導員 柴田 輝夫
- ふれあい ..... 3  
常磐小 斉藤百合子  
矢作北中 中根めぐ美
- 特集 ..... 4  
集まれ みんなのさとやま  
-おかざき自然体験の森オープン-
- お知らせ ..... 6
- フォト・ヒストリー ... 8  
昭和初期の学芸会（昭和8年）
- この本を ..... 8

# ふるさとシリーズ この人に聞く



## 純粋種を守り育てる

天然記念物「三河系蓑曳鶏」  
を語る会事務局長

山田 等 氏

山田さんは、純粋種の蓑曳鶏を三十年以上にわたって飼育している日本で唯一の人である。二年前、日本家禽協会から系統保存で功労者表彰された。

蓑曳鶏は、江戸時代初期の足助原産で、畑の害虫を駆除する鳥として珍重されていた。特徴は、その名の通り蓑を引いているような腰回りのふっくらとした長い羽。一九四〇年（昭和十五年）に国の天然記念物に指定された。

「蓑曳鶏は、普段大変おとなしい鶏です。しかし、雌やひなの前に外敵が現れると、雄は身を捨てて家族を守るのです。雄は家族を大切にしています。」

蓑曳鶏を誇りに思う山田さんの目が一層輝いた。山田さんは静かに蓑曳鶏との出会いを語ってくださいました。「わたしが小学生のころは、祖父がその蓑曳鶏を飼っていました。祖父が亡くなり、祖父の知人の手に渡りそうになると、わたしはひとつがいの蓑曳鶏を親に隠れて育てようと思いました。」

祖父の影響もあつたのでしようが、わたしは幼いころから、蓑曳鶏に愛着を感じて育つたようです。

さらに、蓑曳鶏を継続して飼育する上での苦勞をさらりと言われた。

「わたしは、蓑曳鶏の飼育を苦勞と感じたことはありません。楽しみと感じてやっています。だからこそ、何年も続いているのだと思います。」  
「わたしは、飼い主の気持ちも分かっと思っておうと思

って鶏に接したことは一度もありません。飼い主であるわたしが鶏の気持ちを分かってくらなくてとは思って接してきました。今では、鶏の鳴き声や表情で健康状態が分かります。」

淡々と語られる山田さんだが、その言葉には、蓑曳鶏への愛情が満ちていた。

今回の取材で一番印象深かったのは、山田さんの次の言葉である。

「今強く感じているのは、鶏に対する社会の無理解さです。現代は、鶏を飼うことは迷惑だといって、山里に追う時代になっています。残念なことです。もつと鶏という自然に人間が合わせていくべきでしょう。」

氏名 やまだ ひとし  
生年月日 昭和二十二年十月十九日  
住所 高隆寺町大荷場三十二



## 心に響く道徳の時間の授業

道徳指導員

柴田 輝夫

「今日は、特別ゲストに登場してもらいましよう」の声とともにA男の母親が教室に入る。母親は、A男が幼稚園のころ、交通事故にあったときの体験を切々と語る。わが子に駆け寄り、救急車に乗る母親の気持ちや伝わってくる。「元氣な『ただいま』という声を聞くと、とても安心できます」この言葉は、強く子供たちに響いた。

これは、B小学校三年生の「生命尊重」の授業の一コマである。突然の母親の登場に動揺を見せたA男であるが、話を聞く中で涙ぐむ場面が印象的であった。他の子供たちの目も真剣そのものである。母親がわが子をどれほど心配しているのか、命の大切さを実感した瞬間である。そ

# 涙をこえていこう

常磐小 齊藤百合子

「またA子が泣いちゃったよ。」

山の学習のスタンツの練習の時の事だ。一年前に転校してきたA子。普段はとても明るく、集会で全校合唱の指揮をするくらい活発である。しかし、ささいなことで大粒の涙を流す。そんなA子のことが五年生だったころのわたし自身と重なって見えた。わたしが泣くことで周りの友達を困らせていた。そんな自分が嫌で仕方なかった。A子は、

「常磐小の子たちがわたしのことを本当に友達だと思ってくれているのか不安になって…。」

という。A子の気持ちは痛いほどわかってる。でも、それではいけないのだ。

「泣きたいことがあるけれど、時にはその涙がだれかを傷つけてしま



うこともあるんだよ。だから、涙をぐっと我慢することも大切だよ。頑張ろう。」

昔のわたしを思い出し、A子に話をした。

次の日。A子の日記には「先生も泣き虫だったと話してくれてうれしかった。これから、なるべく泣かないようにがんばるね。」とあった。その後の山の学習では、笑顔いっぱい活動するA子を見て、とてもうれしかった。



## ビバ(万歳)ブラジル!

矢作北中 中根めぐ美

A君とB君はブラジル人。明るい性格のA君は、積極的に友達に話しかけ、すぐにクラスになじんだが、もともとおとなしいB君は一人ずつんとしていたことが多かった。そんな時に行われた写真会。一人で描いていたB君は、絵の具の使い方が分からずに困っていた。

言葉の壁だけでなく、二人がさまざまな生活習慣の違いにも戸惑っていることに気づかせたいと思って、くたときに起こったこの出来事は、ク



ラスの生徒たちに二人のことを改めて考えさせるきっかけとなった。そこで二人と今よりもっと友達になるためのアイデアを考えさせることにした。

「ゆつくり話してあげる」「日本のことを教えてあげて、ブラジルのことを教えてもらう。」等、いろいろなアイデアが出され、その手始めとして、ちょうどその翌日に行われるサッカーW杯決勝戦でブラジルを応援することになった。試合は、ブラジルの勝利。

「先生、ブラジル優勝おめでとうパーティーやろうよ。もちろんA君、B君が主役だね。」

「ブラジルってなんであんなに強いのかな。こんど調べようよ。」

日本中を沸かせたW杯は終わったが、我がクラスのブラジルフィーバーは今始まったばかりである。

の後で、C先生から子供たち全員に家族からの手紙が手渡された。

驚きの声が教室のあちこちから聞こえる。手紙を受け取るその表情から、喜びと期待感を感じた。まるで宝物の入った箱を開けるように手紙を開いている。そこには、わが子を思う親の気持ちが切々と書かれているに違いない。

子供たちから家族への手紙の中に次のような内容があった。「お母さんやお父さんも僕の宝物です。だから、ぼくはぼくで命を守るよ」。親の思いに伝える子供の気持ちが伝わってくる。手紙を食い入るように読んでいた子供の表情と合わせて、本時のねらいが十分に達成できたことを確信した。

現在の道徳教育の基本方針として、「心に響く道徳教育の実施」「家庭や地域の人々の協力による道徳教育の充実」が叫ばれている。本時の授業は、この両方を兼ね備えている。子供たちに知られないように、体験談を話してもらうことや手紙文を依頼することは大変な労力を要する。C先生の熱意が、子供たちの心に響く授業の実現につながった。

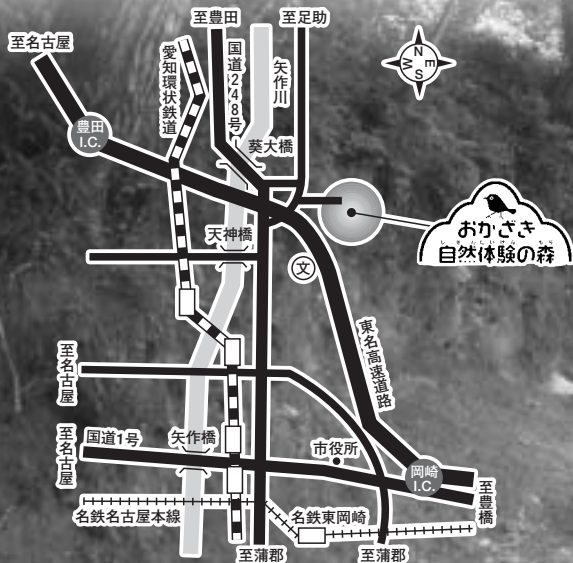
# 生まれみんなのさとちか

## おかざき自然体験の森 オープン

市民参加型の環境教育の拠点「おかざき自然体験の森」が十月に公開される。市公園緑地課は、八ツ木町周辺に広がる丘陵地に、市民・団体等と行政のパートナーシップによる新しいスタイルの施設づくりを進めてきた。自然保護の目的もあるが、この施設の目玉は、活動内容を決めて市民に呼びかけるのではなく、提供された施設を使い、市民が知恵を出して活動内容を決めていくことにある。

今のところ、山の木を使った「木工教室」、田んぼでの「稲作」や「ネイチャーゲーム」「しいたけの菌打ち」「ホームページへの書き込み」など、様々な活動が予定されている。やりたいことを申し込むと講師を紹介してくれるなど、利用方法は市民のアイデアで進められる。もちろん「湿地や山道の散策」「自然観察」などは予約なしで気軽にでき、あらかじめ連絡しておけば、「竹細工」などもすぐに行える。

今年四月、約四十ヘクタールを事前公開した。近くにある細川小学校が、「食べられる植物の学習」や「草花遊び」などの自然体験をしている。また岩津中学校では総合的な学習で、「炭焼き」や「野鳥観察」「巣箱づくり」を計画している生徒もいる。植物や昆虫の宝庫ともなっているこの森、総合的な学習の時間の一環として、また、休日に家族こそぞっての活動の利用も増えそうである。



冒険心を沸き立たせる森の入り口



▲ 森の中のたくさんの動植物を紹介する案内板



▲ 森の素材を利用した木工教室



▲ 農家をイメージした管理棟



▲ さまざまな自然をインターネットで検索



▲ 自然の音色を奏でる竹製の楽器

# お知らせ

## ● 教育最新情報

### ○心の居場所づくり

いじめ・不登校をなくし、楽しい学校生活を送ることができるよう岡崎市では、次のような様々な対策事業を展開している。

#### いじめ・不登校相談室事業

児童生徒、保護者を対象として、いじめ・不登校に対する悩みの相談を受けている。心理的な問題を取り扱う心の専門家である「臨床心理士」が対応することによって、不登校児童生徒の心の成長を促すよう具体的な対策を考える。本年度は、三名の臨床心理士が対応している。

#### ①拠点相談

・ハートピア岡崎

金曜日午前



・教育研究所

月、水、木、金曜日

午後

#### ②学校巡回相談

#### ③ケース会議

#### ハートピア岡崎

ハートピア岡崎の主な役割は、通所が可能な児童生徒に対して学校生活への適応性を高め、学校復帰ができるように指導・援助することである。通所生はそこで学習、清掃、調理といった日常的な活動等を行っている。また、心理的な療法・治療を受けている。スクールカウンセラー・心の教室相談員配置事業

#### 心の教室相談員配置事業

中学校六校にスクールカウンセラー、その他の学校に心の教室相談員を配置している。生徒の悩みを聞いたり、不登校で教室に入れない子供の居

場所として心の教室を設け、指導にあたりたりしている。

#### 心の電話おかげ

昭和五十六年に、当時の校内暴力や家庭内暴力が全国的に発生したことを契機に電話相談機関として開設された。一般市民の悩みの相談にも乗っている。

#### メンタルサポートクラブ事業

心の支援者を組織し、ひきこもりの児童生徒の家庭を訪問し、よき相談者としての立場から側面的に援助している。

#### いじめ・不登校連絡協議会

いじめ・不登校対策事業の検討をしたり、連携を図ったため協議会である。



▲ハートピア通所生保護者会

## ●ハートピア岡崎だより

### ○連絡帳

「一人で抱え込まない」と「外部相談機関との連携」は、不登校対応の大きなテーマである。お互いの協力や役割分担をどう行うか。具体的な実践が求められている。

小学校六年A子は、五月に入って月水金の三日登校できるようになってきた。

A子が三日登校できるようになったといっても、職員室に登校である。どうすれば、毎日登校でき、また、教室に行けるようになるか。

員室にいた先生などの名前が出てくる。

学校にも先生たちにもなじみが深くなってきた六月の半ば、次の段階として放課の時間に多くのクラスの友達が職員室に遊びに来てくれるように、担任の先生にお願いした。また、水泳が好きなA子に、水泳の時間にプールに入るように熱心に勧めた。このころから給食、掃除も一緒にできるようにようになってきた。

七月初めの連絡帳に「職員室にいる時間が少なくなり教室へどんどん行っています。あんまり無理せんようにね」と不登校担当の先生が書き、その次の日には、A子は「今日は友達といっぱいおしゃべりができて楽しかった」と書いていた。

A子の学校では彼女の「居場所」をつくるために、不登校担当の先生を中心に何人かの職員が対応することになった。担任が考案した「きょうもよいことがありますように」という題の連絡帳を見るとそのことがよくわかる。連絡帳には彼女がその日にだれと何をしたかが、彼女の手で書かれている。その中には、担任と不登校担当のほかに関頭、養護教諭、事務職員、職

七月十一日、A子は、自分の持ち物を取りにハートピア岡崎に来た。彼女はそれぞれに「あしたから学校に戻ります」と自分の言葉で「はつきりと言ひ、涙をいっばい浮かべていた。A子の学校復帰の日であった。



▲新たに着任した3人のALT

●新しいALT着任

七月に任期を終えたALTのプラス先生とデイヴィッド先生とステイヴン先生の替わりに、三名の先生が着任した。

・パール・Y・オーミヤ (アメリカ出身) 写真右  
 ・デイヴィッド・G・マーティン (ニュージーランド出身) 写真中央  
 ・アンバー・T・オーダイヤー (オーストラリア出身) 写真左  
 継続のヘレン先生やレベッカ先生同様、活躍を期待したい。中学校はもちろんのこと、小学校からの要請も積極的にしてほしい。

●平成14年度岡崎市小学校体育大会

種目	優勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子 井田梅園 女子 広幡連尺	岡崎	矢作東
バレーボール	男子 竜美丘上 女子 上地奥殿	矢作	大樹寺
バスケットボール	男子 大樹寺男 女子 竜美丘緑	矢作	北根
サッカー	男子 岡崎上地 女子 矢作東南	矢作	北根
水泳競技	北ブロック	矢作	北根
	南ブロック	山本	宿



▲小学校体育大会・水泳競技

●親善訪問使節団の派遣

岡崎市は、友好を深めることを目的に呼和浩特(フフホト)市へ中学生を派遣して今年で十五回目となる。

本年度は、ニューポートビーチ市とタウンランガ市も含め、合同で結団式が行われた。五月九日に結団して以来、研修会を重ね訪問に備えている。

・呼和浩特市長表敬訪問	・格根塔拉草原でのパオ泊	・ホームビジット
〈副団長〉	竜南中	野々山こず江
〈団長〉	市教委	高橋 鏡二
六北中	太田 信	田村 優佳
北中	川石 莉紗	吉村 太郎
竜南中	安藤 泰明	恒見 陽香
矢作中	脇田あゆみ	山口 貴史
岩津中	加藤 早紀	中根 良輔
甲山中	稲垣 綾子	神尾 尚紀

●第55回岡崎市中学校市長杯総合体育大会

種目	優勝	第2位	第3位
陸上競技	男子 矢作北 女子 矢作北	東海	六ッ美
バスケットボール	男子 城北 女子 竜海	甲山	美川
バレーボール	男子 竜南 女子 矢作北	額田	矢作北
ソフトテニス	男子 城北 女子 六ッ美	美川	北
卓球	男子 幸田北 女子 額田	六ッ美	幸田南
体操	女子 南	矢作北	竜海
新体操	女子 東海	南	竜海
剣道	男子 額田 女子 六ッ美	幸田南	常磐
ハンドボール	男子 葵 女子 六ッ美	竜南	六ッ美
軟式野球	男子 城北 女子 城	額田	六ッ美
ソフトボール	男子 城北 女子 甲山	甲山	矢作北
柔道	男子 六ッ美 女子 甲山	甲山	竜海
サッカー	男子 甲山 女子 竜海	新香山	竜南
水泳	男子 竜海 女子 竜海	城	北



▲平成14年度親善訪問使節団

●第55回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

成績	男子総合	女子総合	男女総合
優勝	城北	竜海	矢作北
2位	矢作北	南	竜海
3位	竜南	矢作北	甲山
4位	甲山	甲山	竜南
5位	六ッ美北	北	北
6位	北	竜南	南

・カ  
ツ  
ト  
  
矢作中  
横山  
治



# 昭和初期の学芸会

(昭和8年)

「学芸会」については、昭和初期に書かれた小説『二十四の瞳』の中にも「学芸会に独唱して全校をうならせた」とある。この写真は、昭和八年に、六ッ美中部小で行われた学芸会の劇『桃太郎』の一場面である。「男女七歳にして席を同じゅうせず」という時代であり、男子だけの演技のようである。学芸会には、様々な学習の要素が組み込まれている。子供たちの表情に、みんな一つのものを作り上げたという自信が見てとれる。



写真提供 六ッ美中部小学校



- \*すべてのいのちが愛おしい 柳澤 佳子  
PHP研究所 ¥1600
- \*よい子はよい大人になるか 奥村 晋  
小学館 ¥1300
- \*家族力 山本 一力  
文藝春秋 ¥1143
- \*9月11日からのラブレター  
ブレッグ・マニング  
マガジンハウス ¥1600

\*神の肉体 清水宏保 吉井 妙子  
新潮社 ¥1300  
清水宏保、ソルトレイク五輪スピードスケート500メートルで銀メダル。当初腰痛を押しての出場と伝えられた。だが競技後初めて告白したこと、それは靴下もズボンもはけないほどの激痛を、弛緩ブロック注射11本で押さえてのレースだった。  
彼は、酸素の供給を絶ち筋肉を破壊し再生させることによって、身体を極限にまで鍛えていくという。さらに鍛え抜いて、次の五輪では二つの金を狙っている。「世界の清水」は、想像をはるかに超える強靱な肉体と精神力が作りあげている。

思い出を胸に抱いて登校する子供たち。残暑と戦いながら、長い休みに慣れてしまった自分にうち勝ってやって来る子もいるだろう。元気な顔で迎えてやろう。そして、夏休みは楽しかっただろう、これからもっと楽しい二学期が始まると言ってみよう。

叱咤<sup>しった</sup>激励、この夏も各種大会で監督や応援のげきが飛んだ。教室ではおとなしい子であっても、この時ばかりはチームの仲間と一体となって燃える。歯をくいしばり仲間と同じ目標に向かって全力で突き進む姿、これは何物にも替えがたく尊い。

## シ オ ス ア

四阿<sup>あずまや</sup>近くでネイチャーゲーム。自然を見つめる目を養うことが目的。たくさん利用法が考えられる「おかさき自然体験の森」。いよいよ公開を迎える。やりたいことが行える市民が主体となった取組。今後「総合的な学習の時間」でのグループや個人の利用を期待したい。

スキが穂を出して、風に揺れる野辺の小道。もう、大人の背丈ほどにも成長している。間もなく夏の暑さが遠のくとともに、しっかりと秋をつかんで柔らかい穂をたなびかせる日も近い。風に揺れる豊かな銀色の穂は、実りの秋を予感させる。